



日本学術会議主催学術フォーラム

「科学者は災害軽減と持続的社会的形成に役立っているか？」

平成 28 年 11 月 13 日(日) 13 時～17 時 30 分 (12 時 30 分開場)

主催 日本学術会議
後援 日本地球惑星科学連合、地理学連携機構、防災学術連携体
会場 日本学術会議講堂(東京都港区六本木 7-22-34)

地球環境問題の深刻化と大規模災害の増大の中で、それらに関連する研究に携わる科学者は「社会のための科学」を意識しつつ研究しています。しかし学術的に優れた研究をすればそれが即社会のためになり、社会に評価されるかという、必ずしもそうではありません。そこで本学術フォーラムでは、災害の軽減と持続的社会的形成に向けて努力している研究者がそれぞれの立場で取り組んでいる研究課題とその社会的意義、社会との関わりにおける疑問や訴えたいことなどを紹介し、参加者との間で意見・情報交換と意思の疎通を図ります。

プログラム

総合司会：鬼頭 昭雄 (日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系主幹研究員)

13:00-13:10 開会挨拶、趣旨説明

氷見山幸夫 (日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授)

13:10-13:30 「研究、研究者、研究成果」と「社会を動かす説得力」

和田 章 (日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授)

13:30-13:50 水とグローバルリスク

沖 大幹 (日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

13:50-14:10 土壌劣化を防ぎ、持続的食料生産を可能にする

宮崎 毅 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

14:10-14:30 気象災害・気候災害

松本 淳 (日本学術会議連携会員、首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授)

14:30-14:50 地質地盤情報の共有化による安全で豊かな地域環境の創造

佃 栄吉 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所理事)

14:50-15:05 <休憩>

15:05-15:25 火山災害

中田 節也 (日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授)

15:25-15:45 海域で起きる地震と内陸で起きる地震による災害

平田 直 (日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授)

15:45-16:05 災害・地球環境問題と社会

寶 馨 (日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所所長)

16:05-16:25 フューチャー・アースにおける災害問題への取り組み

安成 哲三 (日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所所長)

16:25-16:40 <休憩>

16:40-17:25 ディスカッション (講演者との質疑応答)

司会：高橋 桂子 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人
海洋研究開発機構地球情報基盤センターセンター長)

17:25-17:30 閉会挨拶

春山 成子 (日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授)



日本学術会議へのアクセス：東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5 番出口 (青山霊園方面) より徒歩 1 分

参加お申込み先：日本学術会議ウェブサイト (<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html>) より 11 月 11 日(金)17 時まで

参加無料、定員 280 名、先着順

お問合せ先：日本学術会議事務局 企画課学術フォーラム担当 電話：03-3403-6295